

今後の鵜殿ヨシ原の環境保全に 向けた取り組み

みち、ひと…未来へ。



鶺鴒ヨシ原の環境保全に向けた検討

NEXCO

【鶺鴒ヨシ原の保全検討に向けた取り組み】

- ・平成25年1月に検討会を設立し、委員の方々からのご指導・ご助言を頂きながら「ヨシの生育等に関する現状調査」を進めてまいりました。
- ・これまでの2年半の生育調査や生育試験等の結果から、鶺鴒ヨシ原の保全対策につながる多くの知見が得られてきたところです。
- ・引き続き「雅楽で使用される良質なヨシの生育環境の保全」と「新名神高速道路事業」の両立に向けた取り組みを行って参ります。

『これまでに得られた知見の活用』（鶺鴒ヨシに関するこれまでの調査・検討内容）

◆ ヨシ（筆築用ヨシを含む）の生理・生態

ヨシ（筆築用ヨシを含む）の生育状況について

ヨシ（筆築用ヨシを含む）の生育環境について

筆築用ヨシのクローンの可能性について

◆ 筆築用ヨシに対する新名神事業の影響

筆築用ヨシ採取エリアについて

筆築用ヨシ採取エリアの地下水について

筆築用ヨシ採取エリアの日照について

これまでのヨシ生育調査結果に関する整理



- ヨシ(筆築用ヨシを含む)の生理・生態についての各種調査結果のまとめ

確認事項

調査・検討結果

ヨシ(筆築用ヨシを含む)の生育状況について



- ・筆築用ヨシは、茎径が約11~12mm程度で真っ直ぐに伸びているヨシを、胸高付近のヨシの茎を手でしならせて硬さを確認し、採取している。
- ・採取エリアは比較的標高が高く、ヨシとオギが混じって生育している傾向にある。
- ・導水路に生えているヨシはもろく割れやすいため、筆築用ヨシとして採取しない。

ヨシ(筆築用ヨシを含む)の生育環境について



- ・筆築用ヨシの採取エリアの土壌は化学的成分の特徴が見られない。
- ・筆築用ヨシ採取エリアはシルト層と砂質土層で構成され、膨軟な土層が主体となっている。
- ・鶺鴒のヨシの結実及び発芽を確認した。
- ・地下水位が低い環境で地下茎が発達する傾向がある。

筆築用ヨシのクローンの可能性について



- ・筆築用ヨシは特定のクローン群から採取されていない。

これまでのヨシ生育調査結果に関する整理



- 筆築用ヨシに対する新名神事業の影響についての各種調査結果のまとめ

確認事項

調査・検討結果

筆築用ヨシ採取エリアについて



採取エリアは計画路線から下流側に約60m離れている。

筆築用ヨシ採取エリアの地下水の状況について



地下水は導水路から河道流水部に向かって(計画路線と並行に)流れている。

筆築用ヨシの根系は主に深さ約2mまでの範囲に分布し、地表から深くなるにつれて減少する。

地表から深さ1.5mまでの土壌水分量は、導水に伴う変化はなく、主に降雨による変化が見られた。

筆築用ヨシ採取エリアの地下水について



仮想構造物の配置により想定される地下水位変動が筆築用ヨシ採取エリアに及ぼす影響はないと推察。

筆築用ヨシ採取エリアの日照について

ヨシの生育に対する日照阻害の影響はないと推察。

鵜殿ヨシ原の環境保全に向けた検討



- ◆ヨシの生育に関する調査結果に基づき、今後は筆築用ヨシの保全と道路事業の両立を目的とした事業計画の検討が必要となります。
- ◆事業計画を検討するにあたっては、以下の配慮事項を念頭において実施いたします。

【設計段階での配慮事項】

- 筆築用ヨシ採取エリアを改変しない構造とする。
- 鵜殿のヨシ原の自然環境にも配慮して、ヨシ原の改変をできるかぎり低減する構造とする。
- 鵜殿のヨシ原の自然環境にも配慮して、導水路機能を確保する構造とする。

【施工段階での配慮事項】

- 施工・資材ヤードの配置は、筆築用採取エリア外とする。
- 工事に伴う車両の進入等は、筆築用ヨシ採取エリアのある新名神計画路線の下流側からは行わない施工計画とする。
- 鵜殿のヨシ原の自然環境にも配慮して、ヨシ原の改変をできるかぎり低減する施工計画とする。
- 工事中も導水路の機能を確保する施工計画とする。
- 筆築用ヨシ採取エリアについてモニタリングを実施する。